



資料5

# IP化の進展に対応した 競争ルールの在り方について

2006年2月22日

富士通株式会社  
代表取締役社長  
黒川 博昭

# IP化の進展による変化

## ● ユーザニーズの多様化

- ネットワークは産業活動、社会生活全般の基盤に
- ユーザニーズは「安さ」「速さ」だけでなく、「セキュリティ」「品質」「使い易さ」等、多様化

## ● ネットワークのIP化の意味

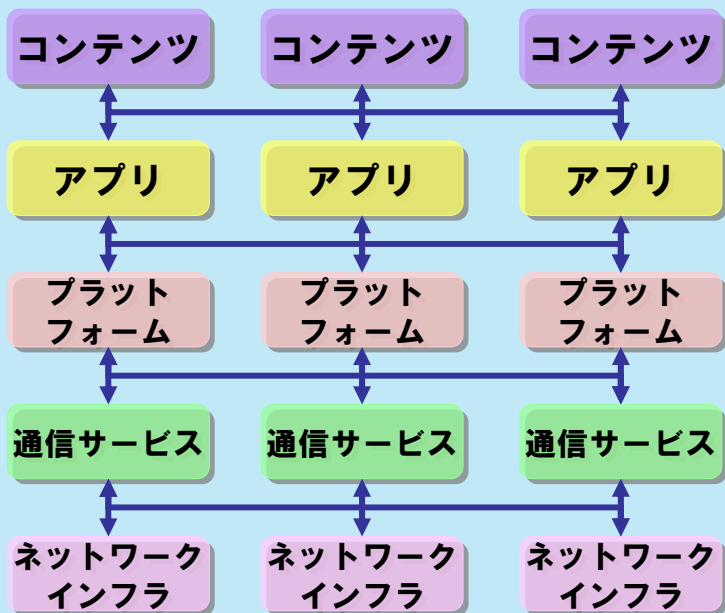
- ユーザには「IP」「非IP」の意識は無い
- サプライサイドから見ると、
  - システムのコストダウン
  - エンドーエンドでのセキュリティや品質確保に工夫が必要
- IP化によって実現すべきは、固定・移動、通信・放送、情報家電、ユビキタス等の新たなサービスや市場の創造

**「新市場の創造」を目指した競争政策**

# 新市場の創造に向けて

## ● 「多様化」を実現する、レイヤー型の市場構造

- サービス、ネットワーク、端末等の自由な組み合わせによる競争を実現することが重要



### ● 原則は自由（ドミナンスは排除）

- 事前の規制は極力すべきではない

### ● 各レイヤーで公正な競争を促進

- レイヤー型規制の考え方の導入

### ● レイヤー間のオープン性を確保

- 特定レイヤーでの市場支配力を梃子にして他のレイヤーでの競争を阻害することを防止

**各レイヤーで公正かつオープンな競争環境を整備**

# ネットワークインフラの在り方

## 「安定的な提供」と「継続的な技術革新」が重要

- 原則はインフラだけでも成り立つビジネスモデルを追求すべき
  - 設備・保守・運用コスト等を踏まえ、中長期的に投資回収が可能なビジネスモデル
  - 「先行投資リスクへの評価」、「適正なコスト負担」、「デジタルデバイド解消」の観点も必要
  - 更なるトラフィック増への対処や、セキュリティ・耐災害性の向上等、次世代の技術革新に向けた研究開発投資も必要
- 固定と移動の融合を促進する(阻害しない)制度
  - WiMAX等の無線アクセスがFTTHを補完
  - 米国ではクワドルプルプレイでの競争が進展

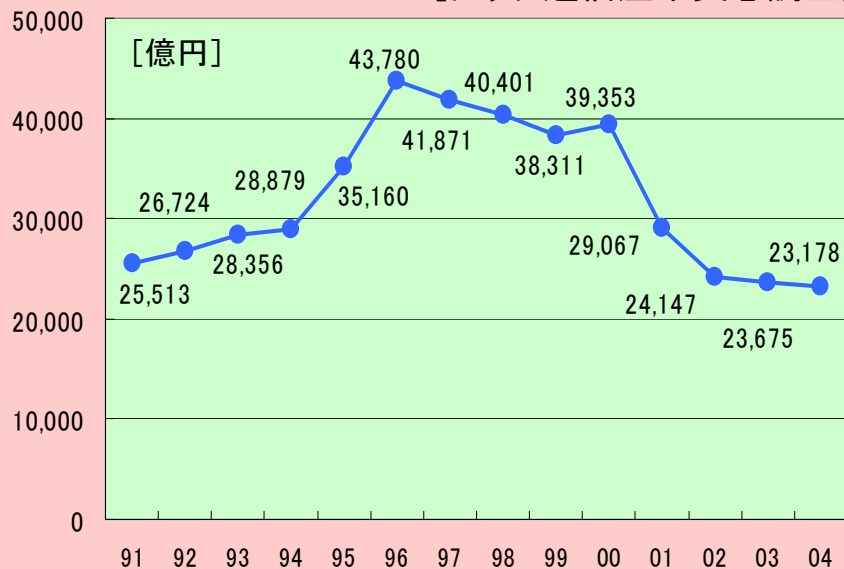
# ベンダーを取り巻く環境

## ● 市場・競争環境の変化

- 回線交換からIPへの技術的転換
- 海外からの参入による競争激化
- キャリアの競争激化による設備投資の減少

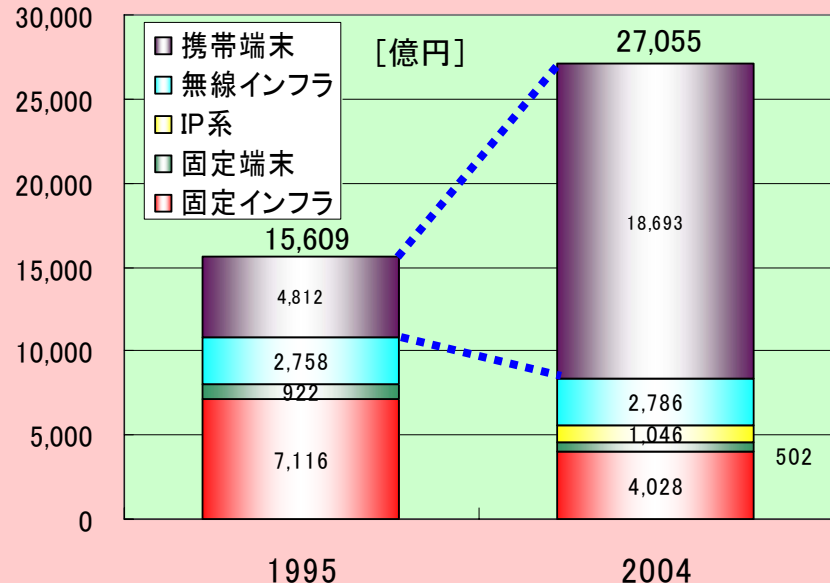
[国内通信事業者の設備投資額の推移]

[出典: 通信産業実態調査]



[国内通信事業者向け機器市場の推移]

[出典: CIAJ]



# ベンダーのグローバル競争

## ● グローバル競争に向けた当社の取組み

- 世界の主要な先進キャリア市場への集中(技術の優位性)
- リーディングエッジ・テクノロジー分野の追求  
(レイヤー型の展開)
  - 次世代ブロードバンドアクセス(FTTH、WiMAX、3.5G(HSDPA(※))等)
  - サービス高度化プラットフォーム(固定・移動のコンバージェンス等)

### [当社のキャリア向けプロダクト事業の現状]



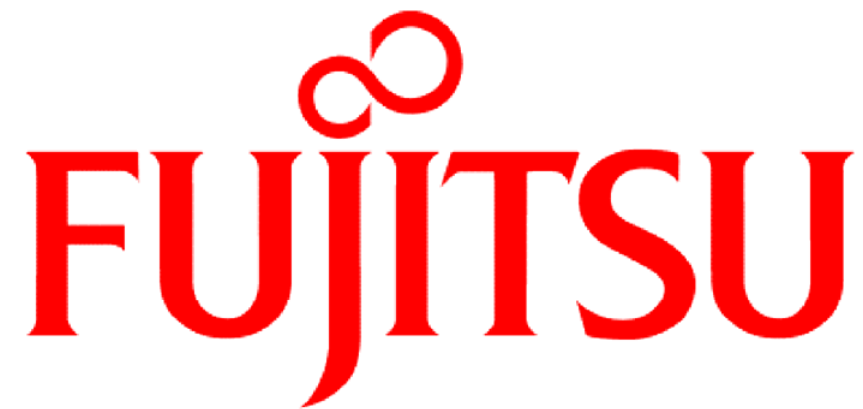
FTEL : 富士通の英国子会社  
FNC : 富士通の米国子会社

[\*出典:各種調査データを元に当社調べ]

※High Speed Downlink Packet Access

# ベンダーの国際競争力強化

- **グローバルベンダーとの熾烈な競争**
  - EU : NGN標準化への先行的な取り組み
  - 米国 : ナショナルセキュリティや政府調達等をうまく活用した技術開発促進
  - 中国 : 独自の標準化政策や国策的な研究開発
- **政府への期待**
  - キャリア・ベンダー・政府が一体となって国際標準化をリードする体制の構築  
(技術・見識・パワーの結集)
  - ハイリスクな研究開発、実用化促進のためのテストベッド、人材育成の強化  
(公的研究機関や大学の強化)



**FUJITSU**

**THE POSSIBILITIES ARE INFINITE**